

令和 4 年度 第 1 回 練馬区区政改革推進会議

区の現状と課題 (区民協働・情報発信)

令和 4 年 10 月 19 日

練馬区 区政改革担当部 区政改革担当課
区長室 広聴広報課
地域文化部 協働推進課

区民協働
1 現状と課題
2 今後の方向性
情報発信
1 現状と課題
2 今後の方向性

区民協働

1 現状と課題

区における協働の取組例

前川区長就任以来、「参加と協働」から「参加から協働へ」と取組を加速してきた。
各分野で新しい協働の取組が広がっている。

取組名	概要
街かどケアカフェ	高齢者など地域住民が気軽に集い、介護予防について学んだり、健康について相談したりすることができる地域の拠点。
こどもカフェ	区内のカフェ等で、お子さんと一緒に参加して、遊んだり、保護者同士が交流したり、リラックスできる場を提供。地域の幼稚園教諭や保育園の保育士、栄養士、看護師などに、気軽に育児に関する相談ができる。
ねりマルシェ	練馬産農産物およびそれを使用した加工品・飲食物などの即売会「マルシェ」。旬の練馬産農産物を農業者自らが販売。
みどりを育むムーブメント	公園や駅前の花壇管理、憩いの森等での管理活動など、貴重なみどりを地域で守る取組のムーブメントの輪を拡大。
ねりまちレポーター	スマートフォンの専用アプリを使って、街路灯の不点灯、道路や公園遊具の破損など、まちの不具合を撮影し、写真付きで手軽に区に投稿できる。投稿を受けた区は、できるだけ早く対応し、不具合を解決。



街かどケアカフェ



ねりマルシェ

協働を推進する区の実践

「参加から協働へ」とさらに前へ進めるため、専管組織として協働推進課を設置し、区民協働交流センターを拠点としながら、協働を推進を図る事業を展開している。

協働を推進する体制の強化

協働推進課の設置

区民の自主的な活動を支援しながら、区民参加と協働による魅力のある地域づくりをさらに前へ進めるため、その専管組織として協働推進課を平成28年度に設置。

区民協働交流センターの運営

町会・自治会を始めとして、NPO法人やボランティア団体等地域で活動する方々の相談や交流の場として、また、地域活動の情報収集、発信のできる場として、ココネリ3階に設置。「つながる窓口」として、人材と求める団体と、地域活動を始めたい方のマッチング支援も行っている。



協働を推進する区の実践

地域活動に一步踏み出すためのきっかけづくり

つながるカレッジねりま

地域活動に参加したい区民の背中を後押しするため、「パワーアップカレッジねりま」や「練馬Enカレッジ」など既存の事業を再編・リニューアル。

令和2年9月に、福祉・防災・農・みどり・環境の5分野からなる「つながるカレッジねりま」を開講。修了生が各分野で活躍できるよう、町会・自治会をはじめ、人材を求める団体とのマッチングを行っている。



協働を推進する区の実践

地域活動を推進するための支援

練馬つながるフェスタ

地域活動がより活発に行われるよう、多くの区民に活動を知る機会、また、参加のきっかけを提供するとともに、団体同士による協働の取組の促進を図る「練馬つながるフェスタ」を開催。区内6か所の会場で地域ごとに地域密着型で開催している。



協働を推進する区の実践

区民や団体の自由な発想から生まれるアイデアの具現化

地域おこしプロジェクト

区民の皆様の自由な発想により、未来に向けた練馬の発展につながる活動を「地域おこしプロジェクト」として採択し、区との協働により実施していく。

1事業あたり300万円を上限に、最大3年度まで補助金を交付。また、団体と協働で事業実施にあたる区の若手職員を現場に派遣し、共に考え、行動しながらプロジェクトの目標達成を支援。平成29年から事業を開始し、これまで10の事業に取り組んでいる。

(これまでに実施したプロジェクトの例)

【ねりまコンビニ協働プロジェクト】



全国初となる認知症高齢者への対応力を高める新たな研修プログラム「ニンプロ」を開発。

【ねりまワインプロジェクト】



練馬産ブドウを使ったワイン作りを通じて、練馬の農業の魅力発信に取り組む。

協働を推進する区の実践

地域の現場で活動する区民との対話

区長とともに練馬の未来を語る会

区民・団体と意見交換する場を設け、語る会の中から生まれた、リアルな現場感覚に基づく新しいアイデアや地域の課題を地域の方々と共に考え、協働での取組につないでいく。



新型コロナウイルス感染拡大による影響と対応

コロナ禍の影響により、協働を推進する取組にも様々な影響があったが、「つながるカレッジねりま」ではオンデマンド授業の導入、「ねりまつながるフェスタ」ではオンライン配信の実施など、工夫しながら事業を実施している。「区長とともに練馬の未来を語る会」も約2年半、開催することができなかったが、コロナの動向を注視しながら徐々に再開をしている。

なお、町会・自治会をはじめ地域で活動する多くの団体も、対面・集客の事業やイベントが見直しになるなど地域での活動に大きな影響が出ていたが、様々な団体が地域の課題に立ち向かっており、現在、徐々に活動を再開している。

課題 町会・自治会の担い手不足

約8割の町会・自治会において「担い手不足」「役員の高齢化」が課題となっている

	項目	回答率
1	役員のみなり手不足	83.9%
2	役員の高齢化	79.0%
3	特定の人のみが参加 参加者が少ない	53.2%
4	住民の関心が低い	41.9%
5	役員の負担大きい	33.9%

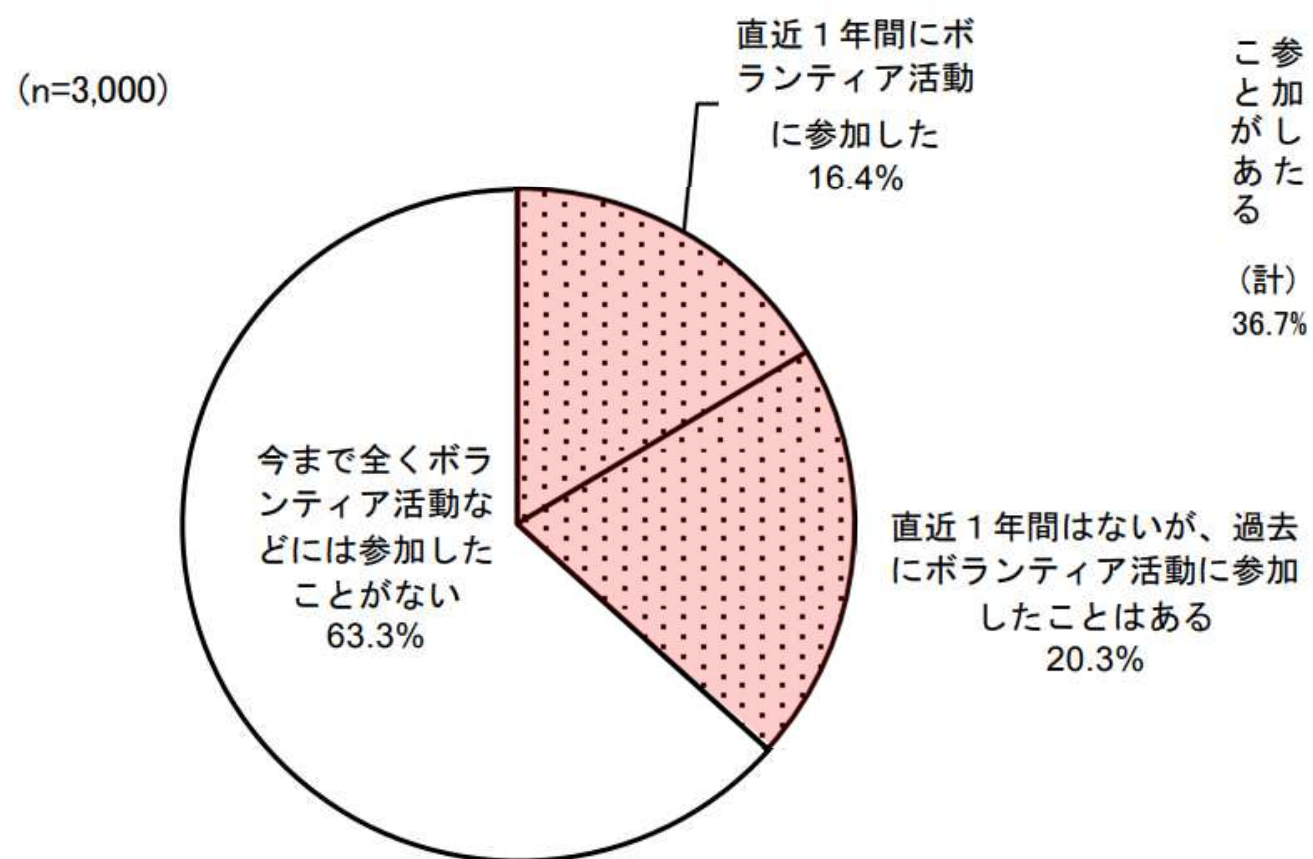
出典：「デジタル活用等に関するアンケート」（協働推進課 令和4年8月）
設問「町会・自治会活動全般の課題」で回答が多かった上位5項目

課題 地域活動を担う人材の掘り起こし

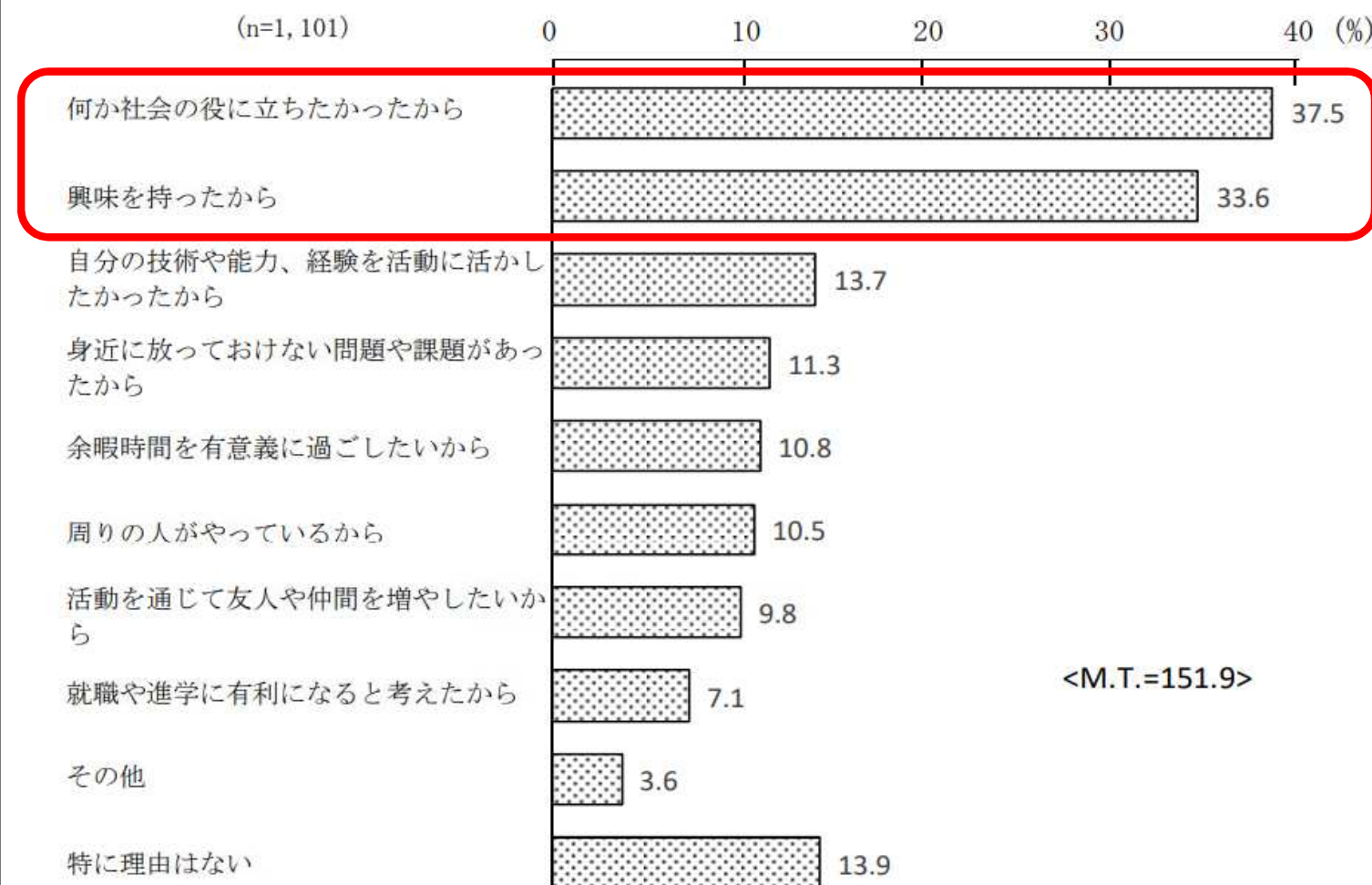
約4割がボランティア活動に参加したことがある

活動への参加した理由1位は「何か社会の役に立ちたかったから」、次いで「興味を持ったから」

Q2 あなたは直近1年間（令和3年2月1日～令和4年1月31日まで）にボランティア活動に参加しましたか。



Q14 あなたがボランティア活動に参加した理由は何ですか。次の中からあてはまるものをすべてお答えください。



出典：都民等のボランティア活動等に関する実態調査（東京都生活文化局 令和4年3月）

課題 多様化・複雑化する地域課題

地域社会のありようや住民意識の変化とともに、地域の現場が抱える課題は多様化・複雑化し、様々なニーズが生まれている

新たなニーズは、行政だけで対応することは、困難

8050問題

デジタルデバイド

部活動の地域移行

中高年のひきこもり

ヤングケアラー



2 今後の方向性

課題に対する今後の方向性

課題 町会・自治会の担い手不足

課題 地域活動を担う人材の掘り起こし

課題 多様化・複雑化する地域課題

- ・多くの町会・自治会では、役員のなり手不足、高齢化といった課題を抱えているが、他の団体と連携して活動を継続・発展させる事例はまだ少ない
- ・町会・自治会の役員や民生・児童委員の方々など、地域活動を支える方々が固定化しつつある

方向性

地域活動の担い手を発掘し、地域課題への取り組みを後押しする

方向性

区民との協働により地域課題の解決に取り組み、区民サービスを充実する

方向性

地域活動の担い手を発掘し、地域課題への取り組みを後押しする

地域おこしプロジェクトのリニューアル

現行制度

対象事業	事業分野や募集テーマの設定なし
採択数	2～3事業
支援内容	・ 3年間300万円の補助 ・ 区職員，専門知識を有した事業者による伴走サポート

新制度（案）

対象事業	課題設定型	テーマ自由型
採択数	2～3事業	15～20事業
支援内容	・ 3年間300万円の補助 ・ 区職員，専門知識を有した事業者による伴走サポート	・ 1事業5万円の補助 ・ 活動の広報支援 ・ 公共施設の場所貸し等

変更点

- ・ 行政課題を区が提示し、そこに協働で取り組む団体およびアイデアを募集する「課題設定型」のコースを新設する。
- ・ 採択事業数を増やし、チャレンジしやすい制度とする。
- ・ 町会・自治会と連携した取組に支援する。



【モデルプロジェクト】

令和4年度実施事業

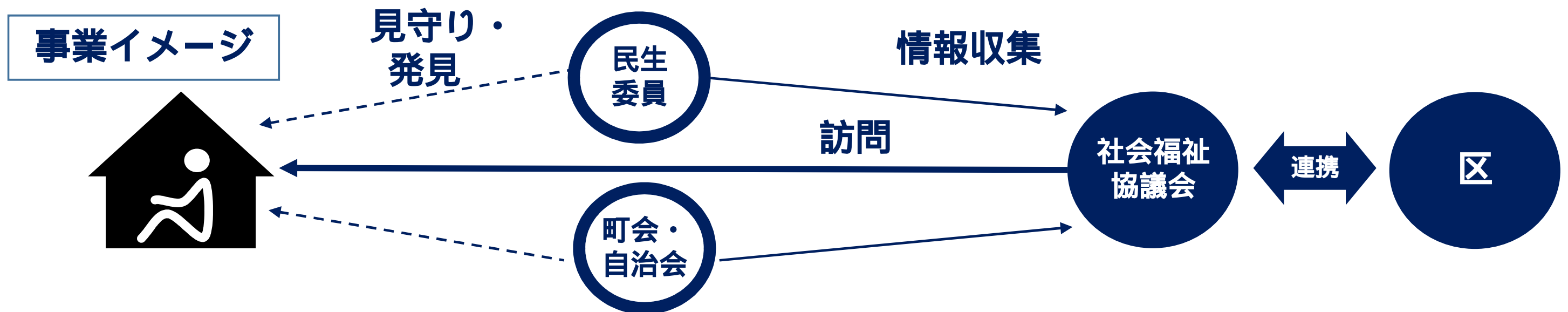
練馬春日町町会「春日町まるっと発見プロジェクト」

方向性

区民との協働により地域課題の解決に取り組み、区民サービスを充実する

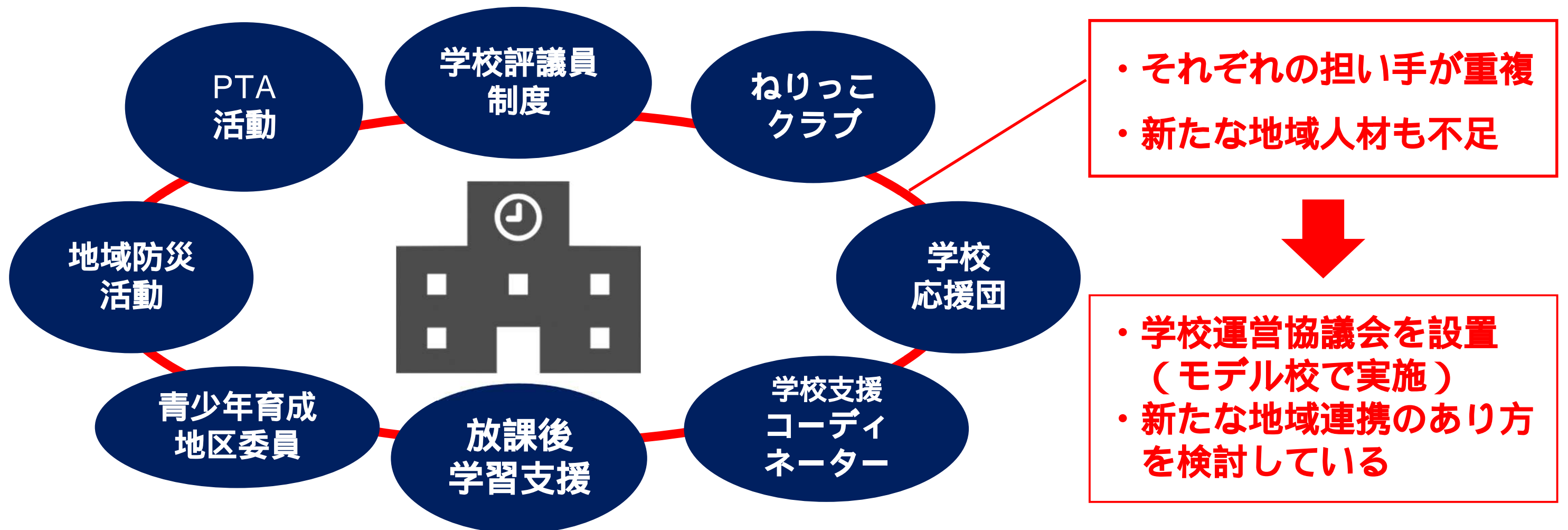
中高年のひきこもりや8050問題など複合的な課題に協働で取り組む

- ・ひきこもりなどの複合的な課題を抱える世帯に対しては、総合福祉事務所の連携推進担当が中心となり、子ども家庭支援センターなどの専門機関と連携して、包括的な支援を行っている。
- ・複合的な課題を抱えながら、支援が行き届かない世帯を早期に発見し、必要な支援につなぐ仕組みが必要。
- ・社会福祉協議会が、区民や地域団体から地域で気になる方などの情報を収集し、プッシュ型で戸別訪問を実施し、必要に応じ、適切な支援につなぐ。



学校における地域連携のあり方

- 学校現場では、これまでも地域の多様な人材との連携により教育活動を展開している。
(PTA活動、地域防災活動、放課後学習支援、青少年育成地区等)
- 学校が教育活動で必要とする地域人材を発掘するためのノウハウが不足。それぞれの事業で核となる地域の担い手が重複している場合もあり、負担が大きい。
- 教員の働き方改革を背景に、部活動の地域移行なども議論されており地域との連携を新たに模索する必要性が生じている。学校運営協議会を設置するモデル校を設定し、新たな地域連携のあり方を検討している。

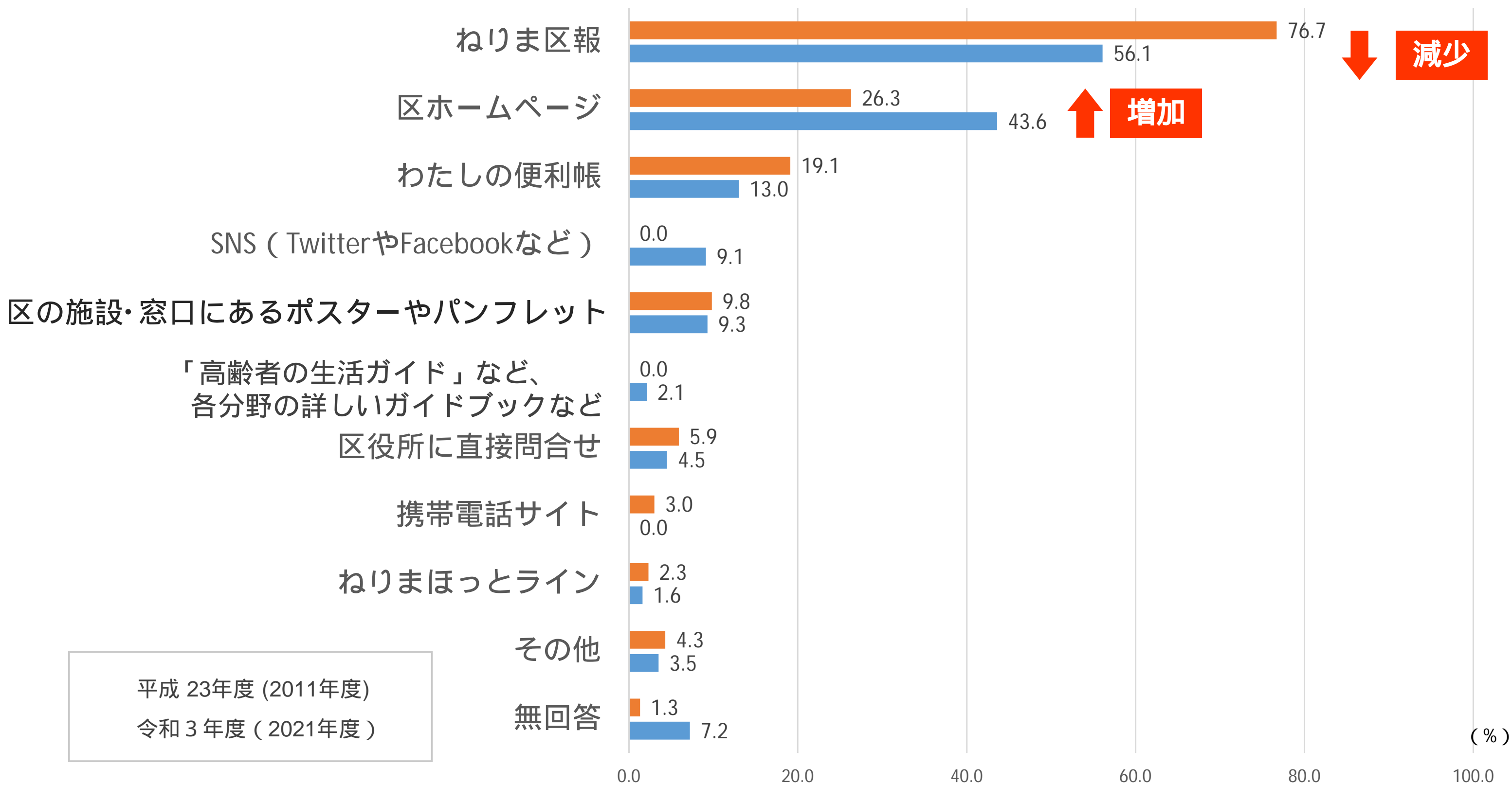


情報発信

1 現状と課題

区民の情報収集の多様化（区政情報の入手先）

ねりま区報やわたしの便利帳などの紙媒体が減少し、
区ホームページやSNSなど、インターネットによる情報入手が増加している。



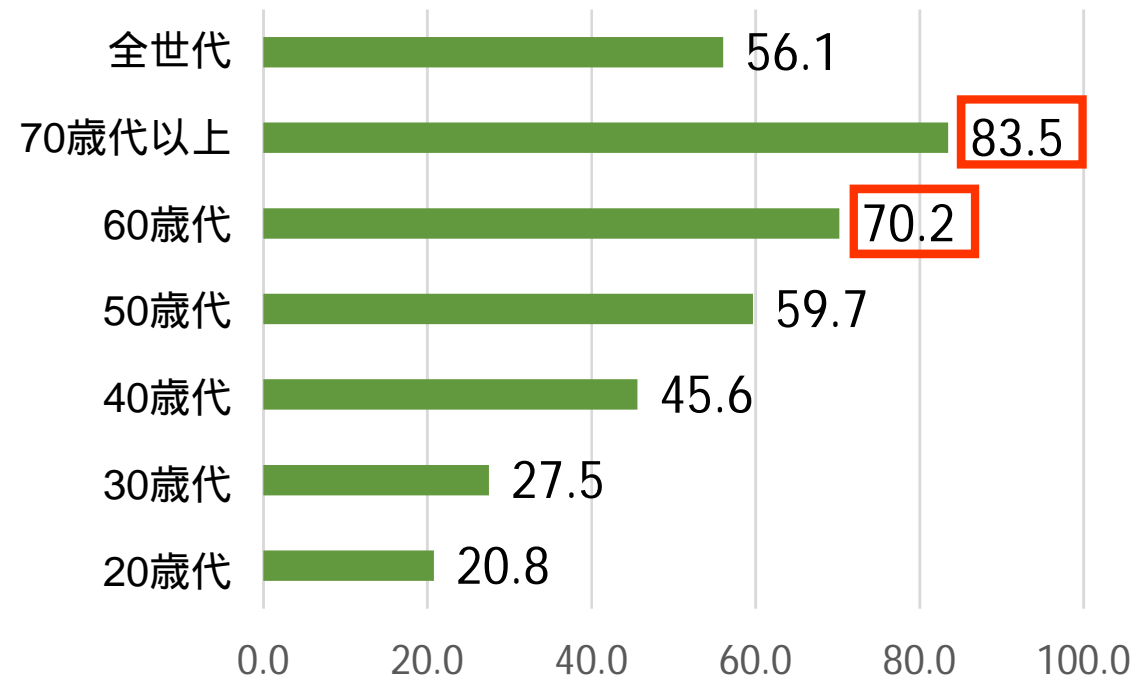
平成 23年度 (2011年度)

令和 3年度 (2021年度)

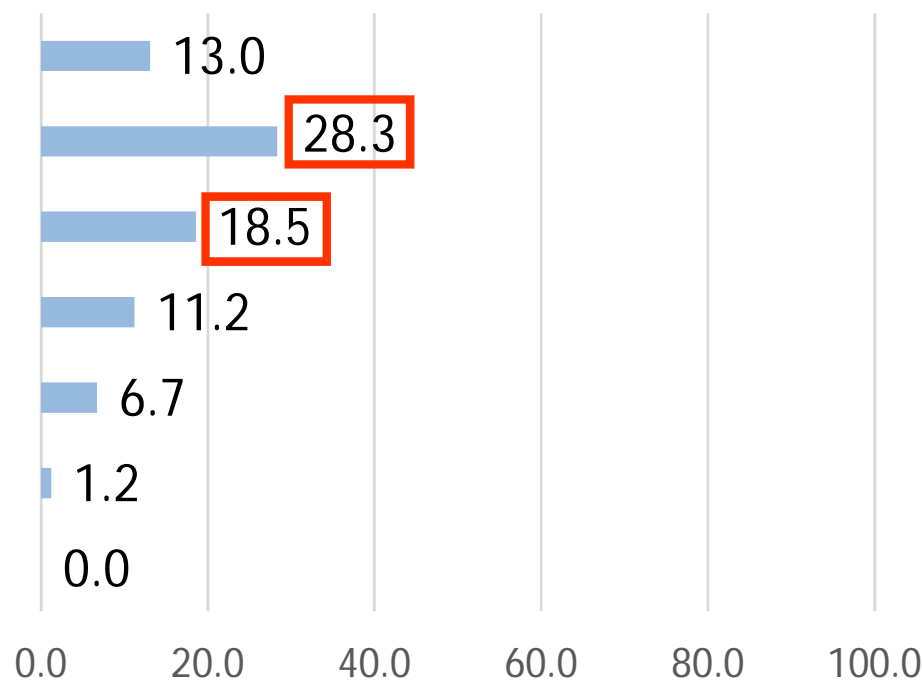
世代による情報入手先の違い

ねりま区報やわたしの便利帳などの紙媒体は、年齢が上がるほど多く活用されている。インターネットでは、HPに比べ、SNSにおいて20代～30代の活用が顕著である。

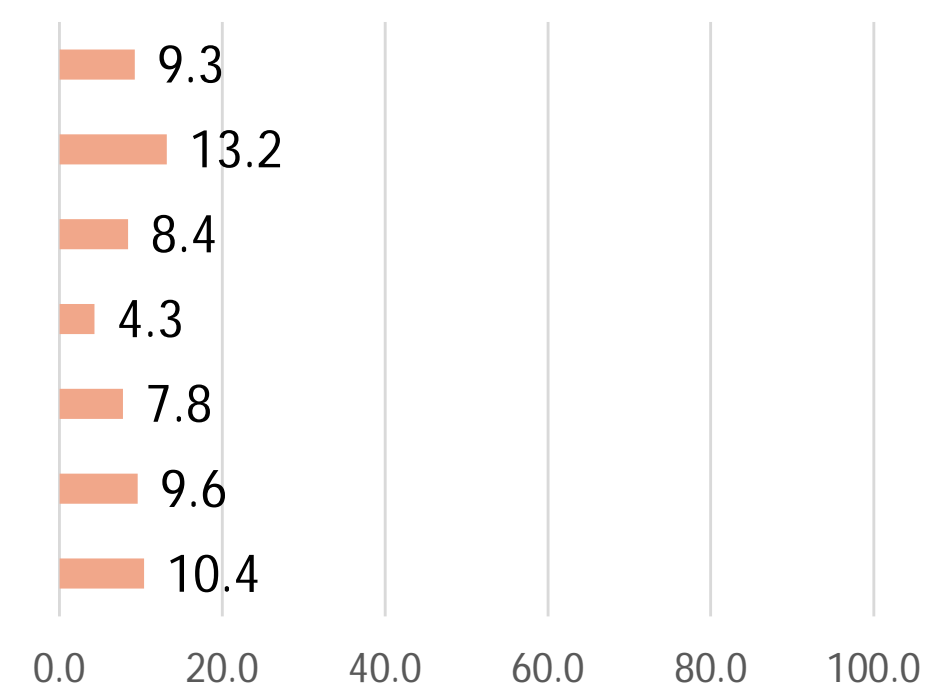
ねりま区報



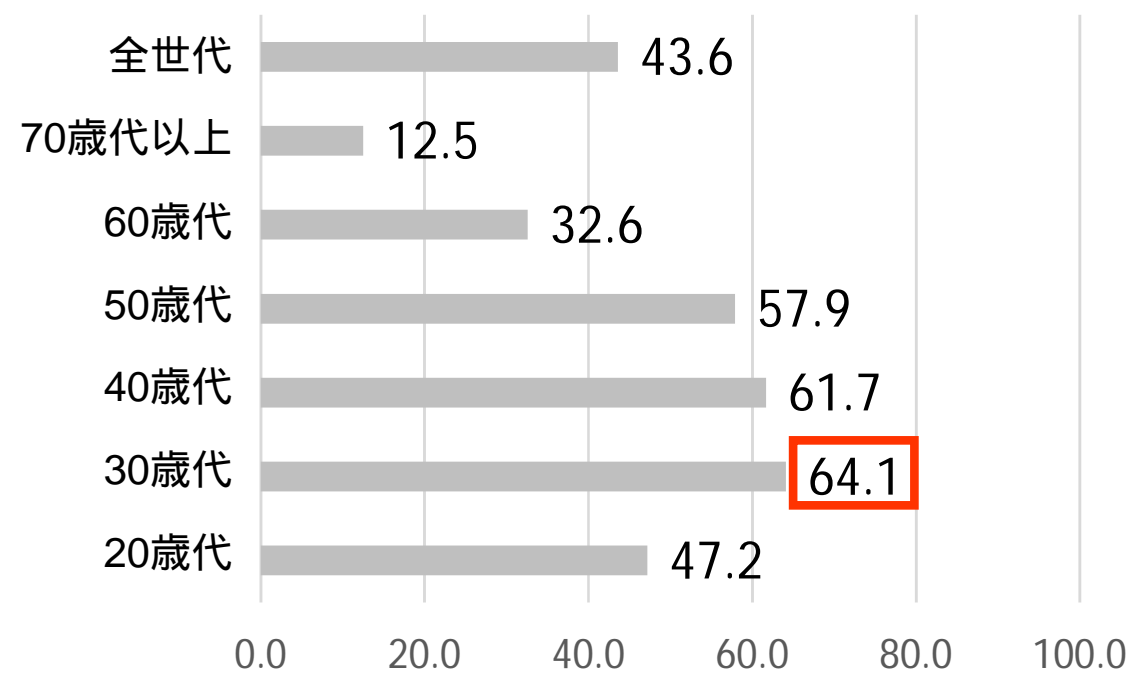
わたしの便利帳



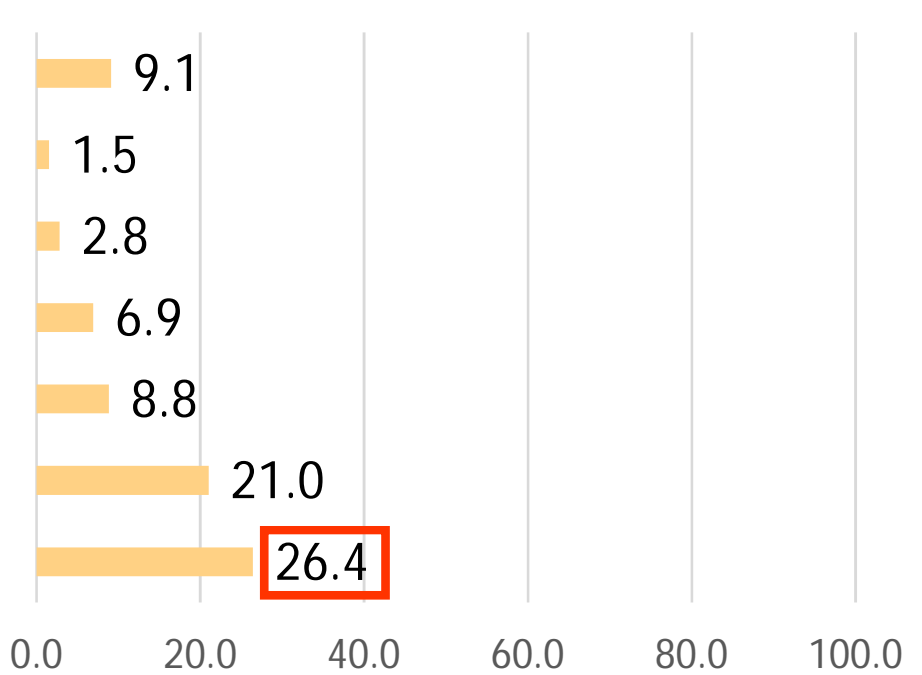
区の施設・窓口にあるポスター・チラシ



区ホームページ (携帯サイト含む)

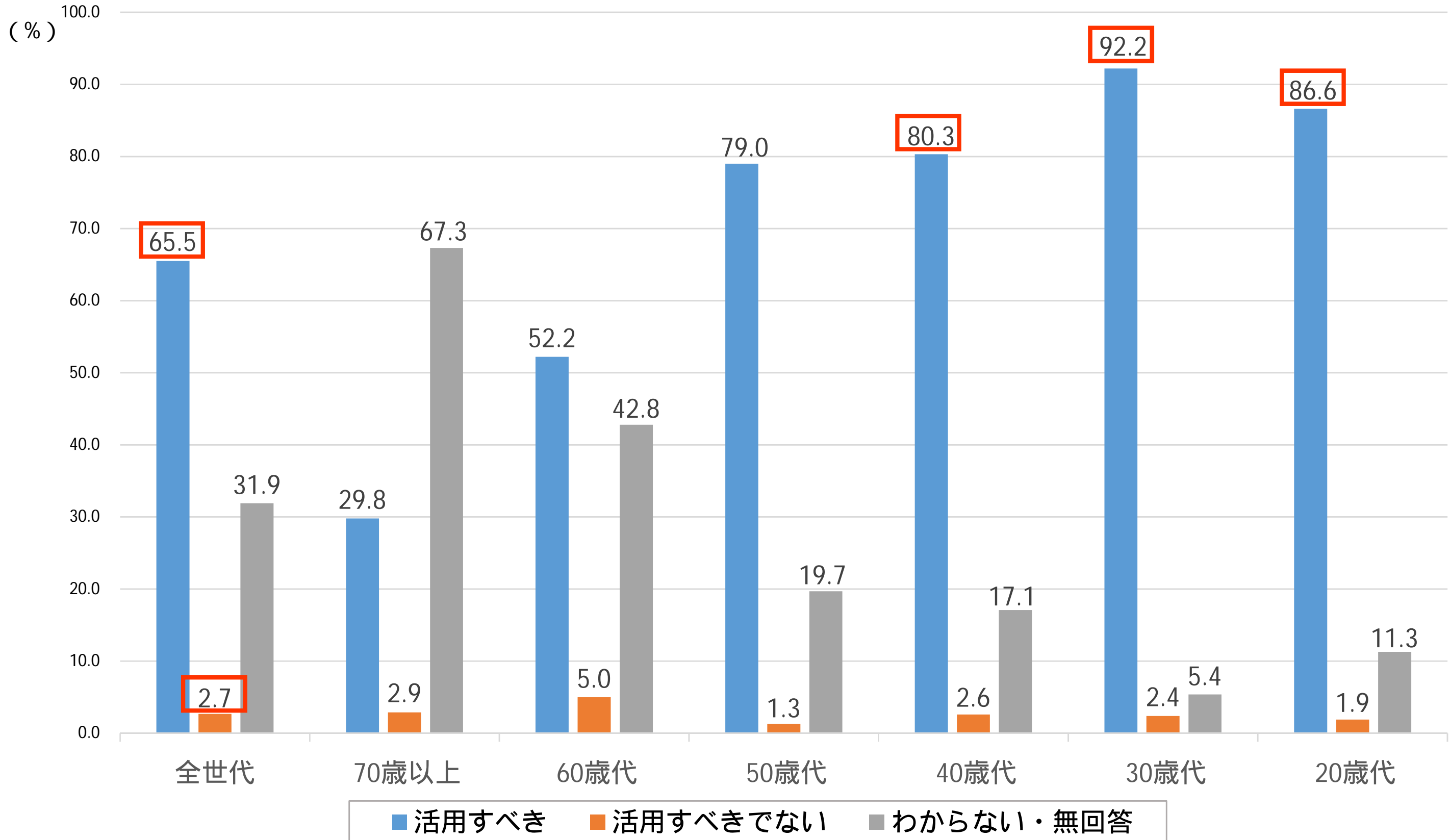


S N S (TwitterやFacebookなど)





SNSを活用した情報発信への区民の期待

「活用すべき」が65.5%、「活用すべきではない」は2.7%である。
20代～40代では、8割を超えている。



区のSNSによる情報発信の状況

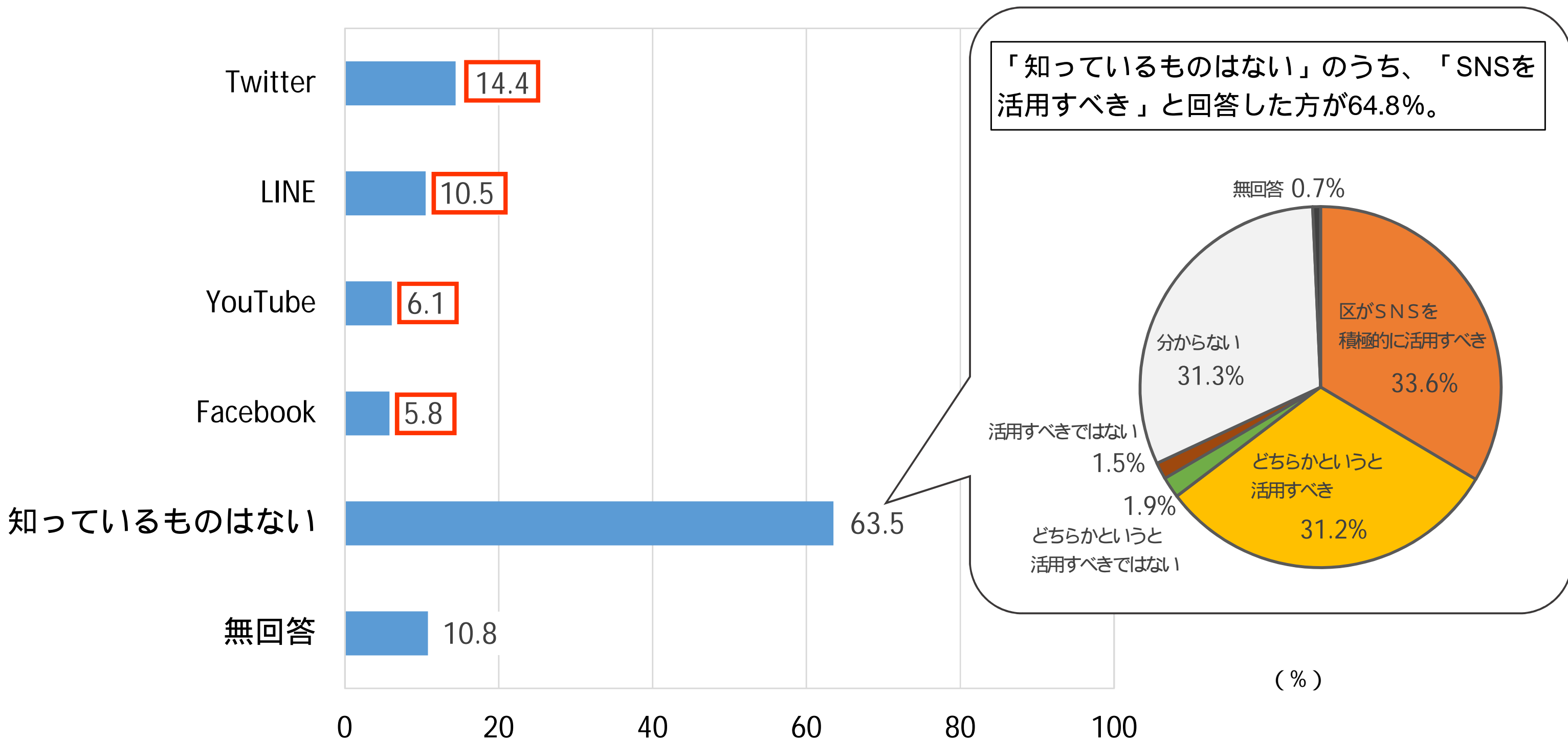
	アカウント	発信内容	登録者数 (1)	開設日 (2)
Twitter 	練馬区公式	区政情報全般	38,157人	平成23年3月
	ねり丸	ねり丸の日常的なつぶやき	16,368人	平成24年4月
	練馬区立美術館	美術館の事業等に関する情報	6,543人	平成28年11月
	など全23アカウント 延べ登録者72,460人			
Facebook 	練馬区公式	区政情報全般	7,373人	平成25年10月
	こどもの森	日常遊びの様子やイベント告知など	3,327人	平成27年4月
	区民協働交流センター	町会・自治会、NPO団体の活動等	734人	平成28年9月
	など全13アカウント 延べ登録者14,218人			
YouTube 	練馬区公式	区政情報全般	5,130人	平成24年12月
	練馬区文化振興協会	施設の事業等に関する情報	417人	平成26年10月
	区民協働交流センター	町会・自治会、NPO団体の紹介やオンラインイベント等	180人	令和2年12月
	など全14アカウント 延べ登録者8,858人			
LINE 	練馬区公式	保育園探し、保育指数シミュレーション等	12,630人	令和2年10月
	石神井公園ふるさと文化館	石神井公園ふるさと文化館の事業等に関する情報	1,638人	平成26年4月
	中村南スポーツ交流センター	営業情報や大会、スタジオプログラム代行等に関する情報	949人	令和2年11月
	など全4アカウント 延べ登録者17,955人			
Instagram 	四季の香ローズガーデン	植物の様子やイベント告知、実施状況等	1,986人	令和3年5月
	牧野記念庭園	園内の様子や展覧会の情報等	631人	令和4年3月
	健康推進課	食育に関する情報、レシピ等	324人	令和3年7月
	など全7アカウント 延べ登録者4,478人			

1 令和4年9月15日現在

2 令和3年度に実施したSNSアカウントに関する調査の回答に基づく日付を記入

区民の練馬区公式SNSアカウントの認知度

区のSNSアカウントを知っている方は5.8%～14.4%。「知っているものはない」と答えた方が63.5%である。

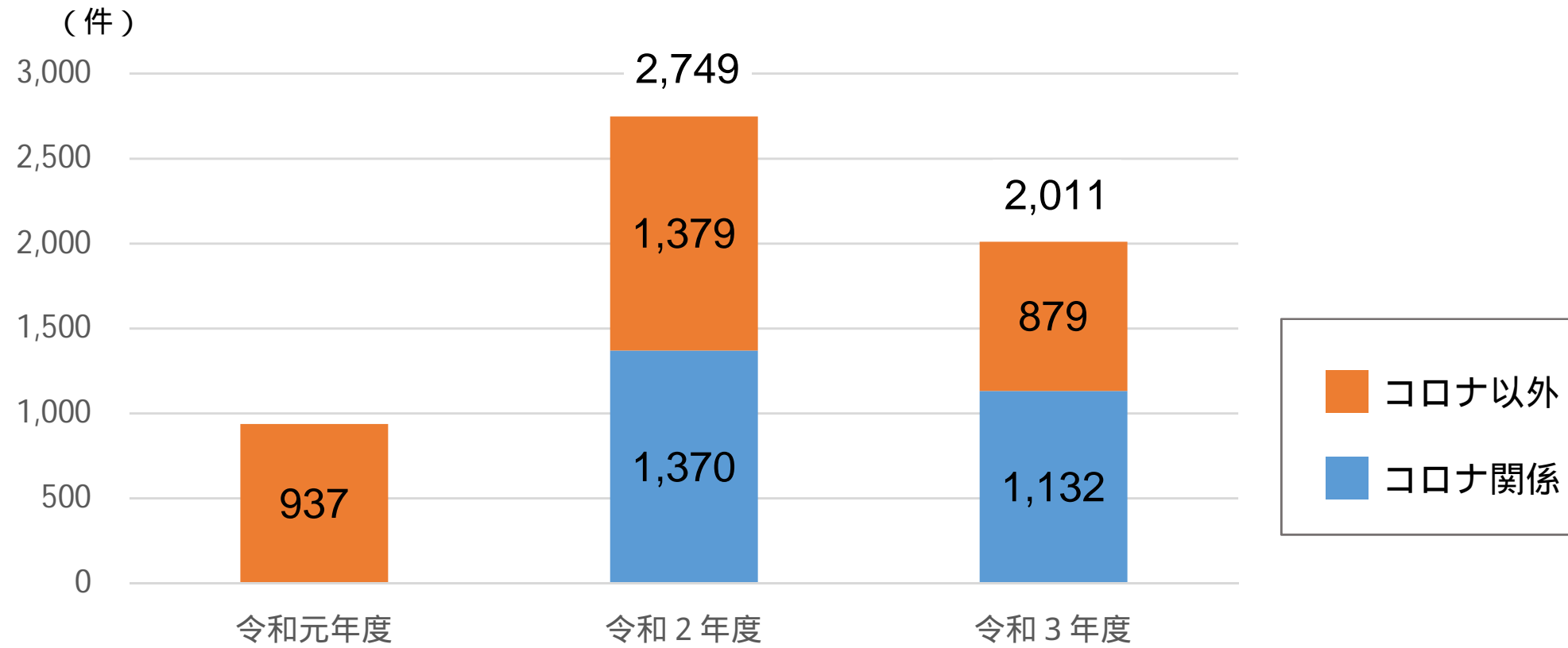


「知っているものはない」のうち、「SNSを活用すべき」と回答した方が64.8%。

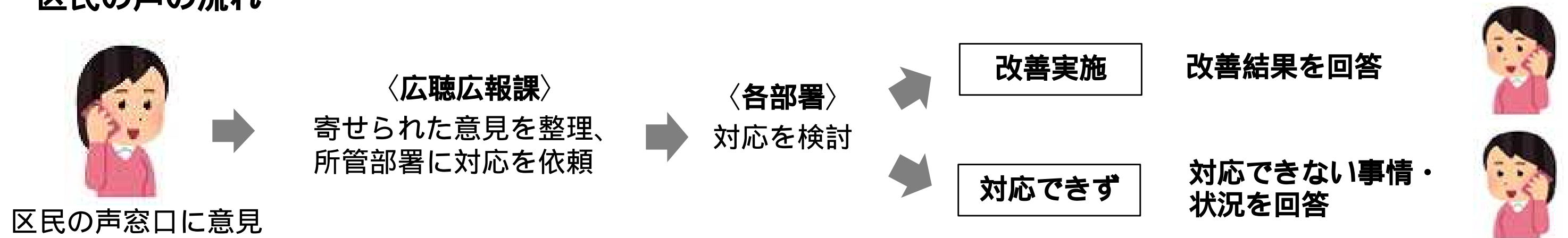
広聴の状況

区のお知らせ、通知がわかりにくいことに起因する問合せや誤解に基づく意見も寄せられている。

区へ寄せられる区民の声



区民の声の流れ

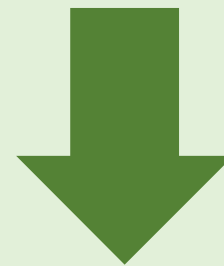


改善結果のうち、各分野の代表的な事例を区ホームページに掲載している。

2 今後の方向性

課題 1 : 区はSNSをもっと活用すべきという方が多い中で、
区が発信するSNSが知られていない

課題 2 : 区のお知らせ、通知がわかりにくいことに起因する
問合せや誤解に基づく意見も寄せられている



方向性

「伝える」から「伝わる」への情報発信の転換

方向性

「伝える」から「伝わる」への情報発信の転換

若年層へのヒアリングなどを通じて、区民の共感を得られる情報発信となるように工夫

区内大学生に、区のHPやSNSを見てもらい、タイトルやハッシュタグのつけ方などについて意見をもらう。

SNSのタイトルや文章をチェックする仕組みづくり、ホームページの見やすさ・検索性の向上、希望する情報のプッシュ型発信などにより、発信力を強化

LINEを活用し、登録者に年齢や興味ある項目を選択してもらい、その方の欲しい情報を区から発信する。

区民へのお知らせ・通知文の見直し

区民の声を分析して、誤解やわかりにくいと指摘のあったお知らせや通知文などを見直す。

寄せられた意見への「ビフォー・アフター」の見える化

改善結果や対応状況を写真や図で示し、ホームページなどで分かりやすく掲載。

投稿内容 ××公園のベンチが壊れてる



○月○日に修理
しました。

